

平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年8月8日

上場会社名 アドアーズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4712 URL <http://www.adores.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齊藤 慶
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部次長 (氏名) 石川 宇正 TEL 03 (5843) 8888
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	5,426	—	282	—	262	—	277	—
25年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 278百万円 (-%) 25年3月期第1四半期 -1百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	2.00	—
25年3月期第1四半期	—	—

(注) 平成25年3月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期第1四半期の数値及び対前期比については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	21,215	10,300	48.6	73.98
25年3月期	20,683	10,162	49.1	72.98

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 10,300百万円 25年3月期 10,162百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	15.0	1,100	161.0	1,000	168.8	600	262.3	4.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※第2四半期連結累計期間の業績予想は行っておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 —— 社（社名） 、除外 —— 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期1Q	139,259,092株	25年3月期	139,259,092株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	20,952株	25年3月期	20,114株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期1Q	139,238,349株	25年3月期1Q	—株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 連結経営成績に関する説明	1
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済政策および日本銀行の金融政策等への期待から円安・株高が進み、製造・輸出等を中心に国内大手企業の業績見通しが好転するなど、景気回復機運が高まりつつあります。個人消費につきましても、雇用・所得環境の改善にまでは至っていないことから本格的な回復には時期尚早ではあるものの、一部の高付加価値商材については消費の持ち直しもみられるなど、先行きに期待できる状況となりました。こうした中、当社グループの主力事業が属するアミューズメント業界におきましても、これらの景況感の持ち直し基調もあり、長らく続いた下降トレンドに歯止めがかかりつつあります。

このような環境のもと、当社は、平成25年3月に実施したキーノート株式会社（以下、キーノート）および株式会社ブレイク（以下、ブレイク）を当社子会社とするアドアーズグループの形成に続き、このグループ経営にあたって、各社とのシナジーを強化するだけでなく、親会社であるJトラスト株式会社ならびにそのグループ各社との連携を最大限に活かせる新経営体制を発足させることと致しました。

主力のアミューズメント事業におきましては、顧客ニーズやマシン特性に合わせた単価施策を全店規模へ広げるとともに、リアル・ネット・メディアを活用した積極的な販促活動、さらに子会社となったブレイクと連携したブライズ景品の充実など、「集客」に資する営業活動を継続して展開致しました。

また、建築事業におきましては、アドアーズが営んできた商業施設向けの設計・施工事業と、同じく子会社としたキーノートが展開してきた戸建住宅の販売事業、それぞれの強化を図る傍ら、規模の拡大によるコスト削減やノウハウの交換・補完による新たな差別化構築に向け、これらすべての事業をキーノートへの集約を図るなど、効率化に向けた事業再編にも着手しております。

さらに不動産事業につきましても、外部からの人材登用、組織体制の変更を含む抜本的なテコ入れを図りながら、Jトラストグループがもつ情報を最大限に活かしたアセットマネジメント・ソリューションを展開・提供できる体制を構築し、今後の当社グループの重要な収益源に向けた展開を開始致しました。

この上で、前連結会計年度末に実施した希望退職の募集などを含む組織のリストラチャリング、効率化を推進した結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高5,426百万円、営業利益282百万円、経常利益262百万円、四半期純利益277百万円となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

※前連結会計年度期中連結のため、前年同期比は行っておりません。

〔アミューズメント事業〕

当社グループの主力事業であるアミューズメント施設運営事業におきましては、国内景気の回復基調を背景に、これまで最重要課題と定めてきた「集客」に資する新規顧客層の獲得に継続して取り組みました。

ゲームの演出を存分に楽しみたいという最近の遊戯ニーズに応える形で、平成25年2月より試験的に開始したメダル貸出単価「1,000円=500枚」施策を拡大展開させることで、4月以降の新規顧客層の獲得に繋がりました。この上で、コアなメダルファン向けのイベント「メダルファンタジアカップ」、客足が鈍る梅雨時期にあわせた「アメ得キャンペーン」など、実績のある人気イベントを継続開催したほか、人気コンテンツやシンガーとのコラボイベントを活用したPR活動などにより、新旧ユーザー層の拡大に努めてまいりました。

さらに、業界初となる自社株価連動式イベント「アドノミクス」等の高単価施策、独自性の高いイベントも開催した結果、注力したメダルジャンルの既存店売上高前年同期比はほぼ前年水準まで回復した他、ブレイクとの連携によるプライズジャンルの強化によって、全体の在客数も前年水準を超えるに至っております。一方、ソーシャルゲームの台頭により一部ビデオゲームが苦戦した他、パチンコ・パチスロゲームも依然として不調から脱却できない中、全体を通じた既存店売上高前年同期比は当第1四半期連結累計期間平均95.3%となりましたが、収益性の高いメダルジャンルの伸長もあり、アミューズメント施設運営事業での収益は前年水準以上を確保することができました。

また、プライズ景品の製造・販売事業におきましては、一部キャラクター景品のヒットなどにより4月は好調に推移したものの、5月以降は伸び悩み、収益面では若干苦戦致しましたが、従来の景品開発準備期間を短縮することで、ライセンス生産のイニシアチブを得ることができる体制を構築するなど、今後の繁忙期に向けた準備を進めております。

以上の結果、アミューズメント事業の業績におきましては、売上高は4,244百万円、セグメント利益363百万円となりました。

ご参考：平成26年3月期 6月末時点における既存店売上高前年比

	4月	5月	6月	第1Q	7月	8月	9月	第2Q	上半期
既存店売上高前年比	92.0%	96.0%	97.9%	95.3%	-	-	-	-	-

当第1四半期連結累計期間における出退店につきましては、アドアーズ海老名店、アドアーズ三ツ境店、アドアーズDEN池袋店の3店舗に加え、ブレイクが運営するゲームゴールデン上野店を閉店しており、現時点での店舗数は64店舗となります。

また、平成25年7月3日付「(株)ゲオとのカプセル自販機に関する業務委託の解消ならびにカプセル自販機等の売却等に伴う特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、株式会社ゲオ運営店舗へのカプセル自販機設置運営事業につきましては受託を解消致しましたが、事業整理・リソースの集中の観点から、他顧客への設置・運営受託も解消を進めております。

〔建築事業〕

商業施設向け建築事業におきましては、新規を含むパチンコホールやカラオケ店、宿泊施設等の設計・施工を受注する中、相対的に件数は増加したものの、業界の価格競争が依然として高かったこともあり収益面では苦戦致しました。

以上の結果、建築事業の業績は、売上高477百万円、セグメント利益46百万円となりました。

なお、同事業におきましては、平成25年5月28日付「当社グループの組織効率化に向けた事業再編に関するお知らせ」のとおり、当社グループ内において、住宅・商業施設ともに対応可能な体制の構築を目指すあたり、ワンストップで行うことができる組織に移行することが、迅速かつ最大の効果を発揮できるものと考え、平成25年7月より同事業は子会社のキーンोटに移行し、事業活動を開始致しました。

〔不動産事業〕

不動産事業におきましては、管理不動産物件の入居率は概ね計画通りに推移したほか、管理費の削減、および物件の仲介に継続して注力致しました。また、子会社のキーンोटが展開する戸建住宅販売におきましては、収益面では苦戦したものの、現状の安定したマーケットにおいて、将来の収益獲得に向けた、ワンランク上のクオリティある家作りに注力致しました。

以上の結果、不動産事業の業績は、売上高703百万円、セグメント利益28百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて532百万円増の21,215百万円となりました。これは主として受取手形及び売掛金等の減少、有形固定資産が償却進行による減少があるものの出資金の増加によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて393百万円増の10,914百万円となりました。これは主として支払手形及び買掛金等が減少したものの、短期借入金が増加したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて138百万円増の10,300百万円となりました。これは主として配当金の支払及び四半期純利益の計上による影響であります。

この結果、自己資本比率は48.6%（前連結会計年度末は49.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間につきましては、上向きつつある経営環境下において主力のアミューズメント事業を中心に、概ね計画通りの売上を確保致しました。

今後は新たな経営体制のもと、アミューズメント事業におきましては、収益力の悪化した一部アーケードジャンルに代わり、引き続きメダルジャンルを主力展開するとともに、近年注目の集まるダーツの導入など、MD構成のスクラップ&ビルドを積極的且つ柔軟に実施してまいります。さらにブレイクと連携した独自性の高いプライズ景品の開発・提供、またネットを活用した積極的なPR活動を展開することで、新規の顧客層の獲得に資する集客施策を徹底的に推進し、収益の拡大に努めてまいります。

建築事業におきましては、キーノートへ集約したことによる効率化と幅広い顧客への対応力の強化を推し進めるとともに、収益の柱として期待する不動産事業におきましては、既存の不動産事業の安定化はもとより、Jトラストグループが有する様々な経営資源を有効活用した事業展開を拡大することにより、当社グループ全体の収益性の向上を目指してまいります。

さらに、平成25年7月3日付「(株)ゲオとのカプセル自販機に関する業務委託の解消ならびにカプセル自販機等の売却等に伴う特別利益の発生に関するお知らせ」に代表される既存事業の整理・リソースの集約による効率化など、中長期的な視点での収益力の強化・経営基盤の構築も進めてまいります。

なお、前述のカプセル自販機設置運営に関する業務委託契約の解消に伴う108百万円の特別利益については、第2四半期連結累計期間での計上を見込んでおりますが、当社グループ平成26年3月期の連結業績予想につきましては、平成25年5月13日の「平成25年3月期 決算短信」で公表致しました通期の連結業績予想を据え置くものと致します。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実行税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,081,578	2,255,200
受取手形及び売掛金等	1,140,552	576,118
未成工事支出金	209,354	220,731
仕掛販売用不動産	345,201	500,048
販売用不動産	1,141,550	1,835,748
商品	187,993	177,959
貯蔵品	92,152	76,510
前払費用	517,952	498,609
未収入金	82,486	42,955
前渡金	37,371	59,960
繰延税金資産	93,417	92,579
その他	194,316	190,719
貸倒引当金	△1,950	△1,243
流動資産合計	7,121,978	6,525,898
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器（純額）	2,323,791	2,116,007
建物及び構築物（純額）	1,986,050	1,995,454
工具、器具及び備品（純額）	106,661	97,186
機械装置及び運搬具（純額）	1,137	975
リース資産（純額）	61,601	53,416
土地	1,437,968	1,437,968
建設仮勘定	24,672	41,519
有形固定資産合計	5,941,884	5,742,527
無形固定資産		
借地権	526,355	526,355
のれん	144,862	129,431
ソフトウェア	34,305	29,894
その他	607	607
無形固定資産合計	706,131	686,289
投資その他の資産		
投資有価証券	33,786	34,012
出資金	9,403	1,409,913
長期前払費用	32,851	41,381
敷金及び保証金	6,308,484	6,220,107
破産更生債権等	116,070	114,898
繰延税金資産	437,614	436,848
その他	180,134	207,634
貸倒引当金	△205,232	△204,026
投資その他の資産合計	6,913,112	8,260,768
固定資産合計	13,561,128	14,689,585
資産合計	20,683,106	21,215,484

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金等	953,637	603,311
短期借入金	662,000	2,148,620
1年内返済予定の長期借入金	1,147,418	1,096,766
リース債務	10,460	10,460
未払金	1,734,818	1,542,447
未払費用	87,619	80,787
未払法人税等	84,030	15,690
未払消費税等	22,434	73,765
前受金	190,100	165,506
預り金	76,567	85,892
未成工事受入金	36,782	4,907
資産除去債務	60,228	35,344
その他	6,955	2,753
流動負債合計	5,073,055	5,866,253
固定負債		
長期借入金	4,319,542	3,985,656
長期未払金	447,041	387,690
預り保証金	481,632	476,765
リース債務	8,717	6,101
資産除去債務	191,086	192,137
固定負債合計	5,448,020	5,048,351
負債合計	10,521,075	10,914,605
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,797,051	4,797,051
利益剰余金	959,414	1,098,122
自己株式	△2,112	△2,217
株主資本合計	10,159,352	10,297,956
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,677	2,922
その他の包括利益累計額合計	2,677	2,922
純資産合計	10,162,030	10,300,879
負債純資産合計	20,683,106	21,215,484

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	5,426,853
売上原価	4,498,173
売上総利益	928,679
販売費及び一般管理費	645,707
営業利益	282,972
営業外収益	
受取利息	335
受取配当金	752
広告協賛金	18,001
その他	21,480
営業外収益合計	40,570
営業外費用	
支払利息	58,527
その他	2,573
営業外費用合計	61,101
経常利益	262,441
特別利益	
固定資産売却益	20,879
その他	826
特別利益合計	21,706
特別損失	
固定資産除却損	101
その他	893
特別損失合計	994
税金等調整前四半期純利益	283,153
法人税、住民税及び事業税	3,582
法人税等調整額	1,622
法人税等合計	5,205
少数株主損益調整前四半期純利益	277,947
少数株主利益	—
四半期純利益	277,947

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	277,947
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	244
その他の包括利益合計	244
四半期包括利益	278,192
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	278,192
少数株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 3
	アミューズ メント事業	建築事業	不動産事 業	計				
売上高								
外部顧客へ の売上高	4,244,881	477,228	703,768	5,425,878	975	5,426,853	—	5,426,853
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	—	13,390	—	13,390	—	13,390	△13,390	—
計	4,244,881	490,618	703,768	5,439,268	975	5,440,243	△13,390	5,426,853
セグメント利益 又は損失(△)	363,640	46,468	28,352	438,461	△330	438,130	△155,157	282,972

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△155,157千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。